

ショッピングセンターや事務所などの金属製屋根を開発・製造している川上板金工業所

(まんのう町)。強い台風にも耐える屋根材「クローザールーフ」を開発し販路を広げている。災害に負けない屋根材の普及を目指す川上正城社長(49)に、業務に懸ける思いや今後の展望を聞いた。

# 災害に負けぬ製品普及へ

なかつた。休憩時間にも修練を重ね、10年かけてやっと自信を持つようになった。

2004年、県内を大災害が襲つた。台風6号の暴風が頑丈なはずの体育館の屋根を吹き飛ばした。建物はどんな場合も安全でなければならなかった。コストを抑え効果を高め

ることで、下からの強い風圧にも耐えられるようになつた。コスツトを抑え効果を高めたり。特に屋根は重要な構造体たデザイン性が認められ、グッドデザイン賞を受賞した。

屋根材の業界は日々進化しており、大手との競争も激しい。勝ち抜くには、自分たちが常に変化していく必要がある。そのため、社内研修会を月に2回開き、異なる分野の人々を外部から呼び、さまざま立場からアドバイスをいただいている。課題をクリアしていくことが、革新的な発明につながると考えている。

川上板金工業所

(まんのう町)

## 金属製屋根を開発・製造

グッドデザイン賞を受賞した  
「クローザールーフ」



■メモ 1934年創業。従業員は37人。西日本全域で施工実績を持つ。屋根材の開発、成形加工、施工までを一貫して行うのが強み。

たのは開発を始めて6年目の10年。鉄板側面にくびれを付け、吹き上げ防止金具と結合することで、下からの強い風にも耐えられるようになつた。コスツトを抑え効果を高めたり。特に屋根は重要な構造体たデザイン性が認められ、グッドデザイン賞を受賞した。

屋根材の業界は日々進化しており、大手との競争も激しい。勝ち抜くには、自分たちが常に変化していく必要がある。そのため、社内研修会を月に2回開き、異なる分野の人々を外部から呼び、さまざま立場からアドバイスをいただいている。課題をクリアしていくことが、革新的な発明につながると考えている。

来年にはクローザールーフの1・5倍の強度を誇る、国内最強クラスの屋根材を製品化する予定。皆さん安心して生活できるよう、進化し続ける企業でありたい。

創業者の祖父は主に神社仏閣の屋根を手掛けっていた。技術は素晴らしい、1968年には皇居新宮殿の屋根のふき替え企業に選ばれるほど。父や父の背中を見ながら、父も後を継ぐ決心をした。ゼネコンで技術を学び、27歳で当社に入ったものの、すぐ壁にぶつかった。先輩からは、仕事は体で覚えろと言わされ、父からも丁寧な指導は